

労働条件は安全  
を支える基盤

# 航空連ニュース

航空労組連絡会  
大田区羽田 5-11-4 フェニックスビル  
Tel 03-3742-3251  
Fax 03-5737-7819  
No.1055 (39-4) 2025年2月26日

個社裁量最大

## ANA 24年度期末一時金3カ月+0.2カ月

2025春闘は、3月3日の回答指定日に向けて、精力的に労使交渉が行われています。ANA（グループ会社含む）では、ベースアップに関する回答の前に、24年度期末一時金と25年度の一時金について会社の提案が示されました。また、ANAのグラハン会社では職能給の引上げが、JALグループのJGSでは25年4月から時短・休日数増が実施されます。



ANAでは、2024年度の連結営業利益1800億達成した場合、期末一時金を3カ月とすることが労働組合に提示されました。

安全や生産性を加味した個社裁量（最大0.2カ月）を加えると、最大3.2カ月となり、これにより24年度の年間一時金は7.2カ月になります。同様の期末一時金は、グラハン各社にも提示されており、グラハン各社の年間一時金は夏冬計4.2カ月と期末一時金を加えると最大7.4カ月になります。

一方、JALの一時金は夏2カ月、冬2.5カ月の合計4.5カ月にとどまっており、同業他社との格差に職場から不満の声が上がっています。期末一時金は、今後の春闘での労使交渉の重要な争点になることは間違いありません。

## グラハン、職能給引き上げ、時短・休日増

ANAグループのグラハン会社では、労働組合からのベースアップ要求を待たずに、中堅層を対象とした職能給を引き上げる賃金制度見直しを行いました。改定後の職能給は5500円から6500円（グラハン連調べ）の引き上げになります。

また、JGSでは年間の労働時間短縮と休日数増について、2023年秋に示された具体案に基づき、今年4月から年間労働時間を1980時間から1944時間に、年間休日数を105日（夜勤含102日）から112日（夜勤含109日）に。さらに、2026年4月からは、年間労働時間を1896時間、休日数を117日（夜勤含111日）に改善します。

1月の訪日外国人旅行者数が378万人で、単月としては過去最高を記録しました。アジアの多くの国で旧正月が1月後半から始まったことが増加の要因と分析されています。

2025年の訪日外国人旅行者数については、すでに4000万人に達することが予想されており、人員や施設、設備面での空港の受け入れ体制の強化が求められています。そのためにも、人材確保はもとより、職場環境の整備や離職防止につながる労働条件改善が重要となります。

以上